

ぎふ女性農業委員 ・推進委員だより

◆編集・発行 ぎふ農業委員会女性ネットワーク
会長 後藤 展子

<事務局> 一般社団法人岐阜県農業会議
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177
E-mail:gifu@nca.or.jp

2018年3月26日
(第8号)

平成29年7月、35の農業委員会で農業委員の任期満了に伴う改選が行われました。その結果、新体制では県内の女性農業委員84名、女性農地利用最適化推進委員10名と、女性委員数は大きく増加しました。

新体制移行前の農業委員定数890から移行後656に減る中、女性委員数が増加したことは大きな躍進です。農業委員に占める女性の割合は12.8%となり、政府が第4次男女共同参画基本計画で掲げる10%の早期目標を達成しました。

女性農業委員を登用する委員会数も増え、42委員会中で39となりました。

ぎふ農業委員会女性ネットワークとしても、登用促進に向け、19名(11農業委員会)に委員候補者推薦書を提出したところです。

全農業委員会で新体制移行完了

女性農業委員 84名 女性推進委員 10名に増加

平成29年7月改選35委員会で67人の女性登用(27人増)

今後、更に女性委員の登用を促進するために、委員となった女性委員の活躍について情報発信をしていきます。

【平成29年7月の改選で女性委員数0を解消した9農業委員会】

大垣市(0↓1)
養老町(0↓1)
関ヶ原町(0↓2)
神戸町(0↓2)
大野町(0↓2)
池田町(0↓2)
坂祝町(0↓1)
川辺町(0↓2)
八百津町(0↓2)

【平成29年7月の改選で女性委員数を増加した19農業委員会】

岐阜市(+1)
羽島市(+2)
大垣市(+1)
養老町(+1)

関ヶ原町(+2)
神戸町(+2)
揖斐川町(+1)
大野町(+2)
池田町(+2)
美濃市(+1)

美濃加茂市(+4)
可児市(+1)
坂祝町(+1)
川辺町(+2)
八百津町(+2)
白川町(+1)

御嵩町(+1)
多治見市(+2)
中津川市(+3)

【女性委員を5名以上登用する6農業委員会】

羽島市5名(農5)
山県市5名(農3、推2)
美濃加茂市5名(農4、推1)
中津川市6名(農5、推1)
恵那市5名(農5)
飛騨市5名(農5)

ぎふ農業委員会女性ネット ワーク平成29年度総会の 開催

9月19日、瑞穂市総合センターにおいて、ぎふ農業委員会女性ネットワークの総会を開催し、県内の女性農業委員45名、女性推進委員3名のほか、農業委員会事務局や東海農政局、県農村振興課などを含め76名が参加しました。

総会では、28年度の事業報告と決算、29年度の事業計画と予算が決定しました。



下呂市 山下委員による「農婚」の紹介

また、女性委員94名のうち53名が1期目ということで、総会終了後に意見交換会を開催しました。

最初に、東海農政局経営支援課の西田係長から「東海地域の女性農業委員の登用状況」についてお話しいただきました。29年7月の改選で、岐阜県、愛知県、三重県の3県で女性農業委員数は180名となったとのこと。女性農業委員数が増加したのは岐阜県だけでした。

瑞穂市社会福祉協議会の河村センター長からは「女性農業委員と行った学習支援モデル事業」についてお話しいただきました。夏休み中の子どもの居場所づくりとして料理教室などを行い、女性農業委員が野菜を提供し、食のお話しをしながら楽しく調理をされたこと、農業委員の高田住代さんは、自身の経営する高田水産に子ども達を招待し、鮎つかみ体験を行ったこと、を紹介いただきました。

全国農業会議所の荒井調査役か

らは「みんなでがんばろう情報提供活動」についてお話しいただきました。女性委員の力で楽しく全国農業新聞を普及しようとして、

シャツの下に着ていた増部にかけたゾウのイラスト入りの『増部Tシャツ』を披露。新規購読を伸ばした2名にピンクの『増部Tシャツ』をプレゼントすると発表し、女性委員のやる気を誘いました。

続いて、下呂市農業委員会の山下康子さんと同市事務局の山田書記から「婚活イベント『農家に恋love』』について話題紹介をいただきました。この婚活イベントは今年で3年目。農業委員会が主催し、男性は全員市内の農家であることが特長です。女性委員が婚活委員を務め、参加男性の野菜をバベキューで提供しPRするなどの盛り上がる企画をされているとのことでした。

恵那市農業委員会の西尾ひろみさんからは「恵那市農業委員会だより『ええのお』』について紹介いただきました。女性委員5名が

編集委員になり、農業委員会の活動や若手農家の紹介、農業者年金のPRなどを工夫して掲載されています。

これら情報提供や話題紹介を踏まえて、6名ずつに分かれ、日頃の活動状況やこれからどんな活動をするかについて、活発に意見交換を行いました。1期目の委員からは不安の声なども聞かれましたが、先輩委員が「心配無用。前向きに一步踏み出して活動しよう」と声をかける良い雰囲気、盛況のうちに終了しました。



恵那市 西尾委員による農委だよりの紹介

2018年3月26日(第8号)

東海近畿ブロック女性農業委員・推進委員研修会 in 滋賀県への参加

12月12日、滋賀県近江八幡市の「滋賀県立男女共同参画センター」において開催された東海・近畿の女性農業委員組織主催の標記研修会に参加しました。

東海・近畿ブロックの女性委員や関係者など156名、本県からは、女性委員16名のほか、農業会議から1名が参加しました。

湖国女性農業委員・推進委員協議会の池田会長から「全国で80%が新体制に移行し、女性委員2,466名、旧体制より22%増えた。増えた中で女性が何をするかを考え活動したい」とあいさつがありました。

研修として、全国農業会議所の三上調査役から「農地利用の最適化に向けた両委員の役割について」の情勢報告、農業者年金基金の中間理事長から「農業者年金加入推進について」の情報報告、三重県

鈴鹿市で有機・無農薬野菜3品を女性中心に作るNaturalVegetableの近藤啓子代表の講演、滋賀県内の3名の女性農業者の事例報告が行われました。



奈良県の(有)ポニーの里ファーム 視察研修の開催

東海・近畿ブロック女性農業委員・推進委員研修会の開催に合わせ、翌12月13日に、奈良県高

市郡高取町(たかとりちょう)において視察研修会を開催しました。同町農業委員の明見美代子さんとの意見交換のほか、明見さんが参画する(有)ポニーの里ファームの大和トウキなど薬草を使った地域振興や食育について研修を受けました。



同町は、古くから、くすりの町として有名で、大和トウキは地域のブランドです。トウキはセリ科でセロリのような芳香が特長で、

乾燥させた根が生薬として使用されてきました。なかでも大和トウキは有効成分が多い優れた品種とされています。同社では、遊休農地でトウキを生産し、根だけでなく葉も使って6次産業化商品の開発をされています。



今回は、パウダーにしたトウキに、野菜のパウダーやハーブを混ぜるオリジナルスパイスづくりと、トウキと岩塩を混ぜたオリジナルバスソルトづくりを体験しました。

地域の農産物の魅力を使って消費者と交流する方法として、おみやげにもなる加工品づくり体験は、自分達でもできそうと大変参考にまりました。



女性農業委員登用促進研修会への参加

1月10～11日、東京都「主

婦会館」において標記研修会が開催され、女性農業委員や都道府県農業会議職員等123名が参加しました。本県からは、県農業会議が女性農業委員登用促進アドバイザーに委嘱している「ぎふ農業委員会女性ネットワーク」の後藤会長、市橋副会長、佐伯副会長、中野副会長と事務局が参加しました。研修会では、茨城県神栖市農業委員の原範子さんの「女性の元気が農業・農村の元気！食と農をつなぐ農村女性の取組」について講演。神栖が誇る生産量日本一位のピーマン経営をされています。ピーマンファンを増やそうと、原さんが市やJAに声をかけ、新たなピーマンの食育や消費者への販売イベントを展開されています。勇気を出して女性委員が自ら行動を起こすこと、とエネルギーな話をしていただきました。

その後、10グループに分かれて意見交換。農業委員に課された使命である農地利用の最適化推進、例えば、農地貸し借りのマッチング、集落での話し合い参加、戸別訪問による農地の意向把握、これらを女性委員としてどう取り組んでいくか話し合いました。また、女性農業委員の登用を今後さらに伸ばすにはどうすべきか、についても話し合いました。「農地貸し借りのマッチングには、所有者と耕作者の思いを組むことが大事。女性の方が、うまく間に入れる時も多いのでは」「楽しそうに活動しよう。地域や男性委員も見ていられ、輝く姿を見せれば、農業委員やってもいいかな、と思う女性も増えるのでは」など意見が出ました。

全国農業委員会女性協議会の平成29年度総会への参加

1月11日、東京都「主婦会館」において、女性農業委員登用促進研修会に引き続き開催され、各県の女性農業委員組織の代表など8

6名が参加しました。本県からは、ぎふ農業委員会女性ネットワークの後藤会長、副会長3名と事務局が引き続き参加しました。

総会では「平成29年度の活動報告の承認」「平成30年度活動計画の策定」、また、3年前から協議されている会費を徴収することについて、活動の強化と新規の取り組みを展開するため、平成31年度から実施する方針が示されました。

白川町の佐伯農業委員 全国農業新聞増部1位

全国農業会議所の荒井調査役の企画「9月から11月末の短期間に全国農業新聞増部しよう運動」では、白川町農業委員の佐伯美智代さんが2部増でトップに輝きました。県農業会議から最新号の見本紙や普及資材を何度も取り寄せ、町内で熱心な普及活動をいただきました。約束どおり荒井さんから

2018年3月26日(第8号)

増部にかけたゾウのイラスト入りの『増部Tシャツ』を贈呈しました。



佐伯委員 全国農業会議所 荒井さん

14回女性の農業委員会活動推進シンポジウムへの参加

3月8日、東京都「砂防会館」において標記シンポジウムが開催され、女性委員など約480名が参加しました。本県からは、委員10名、農委事務局1名、農業会議1名が参加しました。

京都府立大学生命環境科学研

究科、中村貴子講師が「女性が農村で輝くために！今、女性の農業委員と農地利用最適化推進委員に求められる役割とは？」と題して講演。

女性の農業就業人口が減ると耕作放棄地の増え方が高まることに着目。女性の関わりを増やすこと、特に農地に関与する農業委員会は女性の力が必要。担い手に集められない農地も多いため、地域でこだわったスモールビジネス、これを女性が展開することを増やしては、とお話しされました。

2030年に女性委員比率50%「203050」を目指されたいと激励もいただきました。



京都府立大学 中村講師

パネルディスカッションでは、女性の視点を活かして農地利用の最適化に取り組むため、全国農業会議所の稲垣局長代理の進行のもと、山形県酒田市の五十嵐会長、徳島県女性組織の谷口会長、鹿児島県南種子町の石堂会長が事例報告され、熱心に議論した。



飛騨市・下呂市・瑞穂市・本巣市から参加した農業委員

シンポジウム終了後、沖縄県農業委員会女性協議会の6名と意見交換会を行いました。

また、翌日3月9日には、ぎふ農業委員会女性ネットワークの会員6名と農業会議1名で、千葉市

幕張メッセで開催中のアジア最大級の食品・飲料専門展示会「FOOD EX JAPAN 2018」を視察しました。

Cookpad 岐阜県代表レシピの漬物ステキ第4位

レシピサイトCookpadの公式キッチン「全国農業新聞の献立♪」では農産物のことを知りつくした農業委員たちの自慢のレシピを公開しています。全国農業委員会女性協議会は、各県農業委員会女性組織から代表レシピ1点ずつを募集しベストレシピグランプリを開催しました。岐阜県からは代表として、飛騨高山の家庭料理「漬物ステキ」を応募。

平成29年8月から30年1月30日までの累計アクセスで第4位となりました。第1位は埼玉県「みそポテト」、第2位は「しいたけの肉詰め」、第3位は沖縄県の「黒糖とタピオカのくずもち」。

Cookpad「全国農業新聞の献立」掲載レシピ

みそポテト 1位 埼玉県 6,945 アクセス



秩父地域において、農作業の合間や小腹がすいた時に食べる郷土料理。サクサク、ホクホクとして甘辛い味噌だれがよく合います。

漬物ステーキ 4位 岐阜県 3,111



漬物ステーキは、飛騨高山に古くからある家庭料理の定番中の定番。昔から、どこの家庭でも親しまれています。

黒糖とタピオカのくずもち 3位 沖縄県 3,458



純黒糖にこだわり好きな黒糖の香りに満足しています。是非手作りしてほしいデザートです。

しいたけの肉詰め 2位 徳島県 4,576



徳島県産の肉厚のシイタケを使った定番料理♪

投稿レシピ受付中です。材料、作り方、写真を農業会議まで提供下さい(現在274レシピ掲載中)

同市農業委員会は、遊休農地を活用し特産の栗を植栽するなど、農地の再生に取り組み、耕作放棄地の解消等に顕著な実績をあげられ、お二人は20年近くにわたり



後藤委員 農政局西田部長 吉村委員

平成29年度農業委員会並びに農業委員の農林水産大臣表彰において、中津川市農業委員会と同市農業委員会委員の吉村正美会長と、後藤展子職務代理が受賞されました。

中津川市農業委員会及び吉村正美委員・後藤展子委員 農林水産大臣賞受賞

みなさんの購読のお申し込みをお待ちしております

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。

毎週金曜日発行 月700円 / 年8,400円
お申込みはお近くの農業委員会まで



委員として活躍いただき、その功績が認められました。

農業委員会はこんな活動をしています

農業委員会は、農業委員と農地利用最適化推進委員が協力して、農地が遊休農地にならないように、耕作できる担い手などに集めていく取り組みを中心に活動しています。

農地利用の最適化の推進

担い手への農地の集積・集約化
耕作放棄地の発生防止・解消
新規就農や企業参入の促進



農地の利用状況調査

担当地区の農地パトロール
遊休農地所有者への耕作の意向の確認



市町村長などへの農地利用の最適化の推進に関する意見書の提出

担当地区での活動をもとに意見をあげます



農地法等に基づく貸借や転用の許可・意見

総会での審議



農業経営の合理化の支援

農業会議と連携して
農業者年金の加入推進
法人化の相談
複式農業簿記の支援



農業者への情報提供活動

農業委員会だよりの発行
全国農業新聞の普及活動



農業委員会は活躍する女性を求めています

農業委員は ~ を満たすように推薦・公募
過半を原則として認定農業者とすること
農業者以外の中立的な立場の方を1名以上入れること
女性・青年を積極的に登用すること

認定農業者の共同申請をしよう



政府目標 「第4次男女共同参画基本計画」

目標 農業委員に占める女性の割合: 10%(早期)、30%(平成32年度)

現在 女性農業委員数「84名」/ 農業委員数「656名」×100 = 12.8%

認定農業者の家族での共同申請をお願いします

認定農業者とは、今後5年間の「農業経営改善計画」を作成し、市町村から認定された農業者(個人・法人)です。改善計画において、市町村の「農業経営基盤強化促進の基本構想」に定められた所得や年間労働時間の目標達成を目指します。

(参考)H29 県内の認定農業者数 2,118 うち共同申請 23 協定締結数 558

家族経営協定の締結

家族で「経営の意思決定の参画」や「役割分担」、「収益の分配」について話し合い、協定書に調印

初めて認定を受ける場合

既に認定を受けている場合

農業経営改善計画の作成

5年後の目標と達成のための取組内容を記載

農業経営改善計画の変更

夫婦や親子など共同申請者を追加

市町村へ家族連名で申請

市町村へ変更申請

市町村が計画認定

認定基準

市町村の基本構想に適合しているか
農用地の効率的な利用につながるか
達成できる計画か

市町村が変更計画認定

共同要件

申請者は同一世帯などの親族か
適切な協定が締結されているか
協定が守られているか

家族経営協定による農業者年金のメリット

家族経営協定を締結し経営に参画している経営主の配偶者や後継者(40歳未満)には保険料の補助があります。月額2万円の保険料のうち、35歳までは1万円、35歳以上は6千円を国が積み立ててくれます。(補助は最長20年、ただし35歳からは10年)

次の ~ を満たす方が加入できます。

60歳未満 国民年金1号被保険者 年間60日以上農業に従事



<編集後記>

平成29年7月に県内全ての農業委員会が、新体制に移行し、女性委員が多数誕生しました。女性委員として、どんな活動をするか、会員の特徴的な活動も発信していきたいと思えます。(M)

編集
発行

ぎふ農業委員会女性ネットワーク 岐阜市藪田南 5-14-12 県シンクタンク庁舎 2階
事務局:一般社団法人岐阜県農業会議
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177 E-mail:gifu@nca.or.jp URL:http://www.gifu-agri.jp